

**(提案1)**

科学研究における健全性の向上に関する検討委員会運営要綱（平成25年7月26日日本学術会議第176回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後				改正前	
(略)				(略)	
(分科会)				(新設)	
第4 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。					
分科会	調査審議事項	構成	設置期限		
臨床試験制度検討分科会	臨床試験における技術的、理論的質向上に関する事項を含む臨床試験の今後の制度の在り方に関すること	会長の指名する副会長及び部の役員若干名並びに会員又は連携会員合わせて15名以内	平成26年3月31日		
(庶務)				(庶務)	
第5 (略)				第4 (略)	
(雑則)				(雑則)	
第6 (略)				第5 (略)	

## 附 則

この決定は、決定の日から施行する。

科学研究における健全性の向上に関する検討委員会分科会の設置について

分科会等名：臨床試験制度検討分科会

1	所属委員会名	科学研究における健全性の向上に関する検討委員会
2	委員の構成	会長の指名する副会長及び部の役員若干名並びに会員又は連携会員合わせて15名以内
3	設置目的	最近、臨床試験に関連するデータねつ造や利益相反などの問題が起き、このままでは日本の科学研究に対する社会の信頼を揺るがしかねない状況にある。臨床試験については、これまでに、国際的に医学雑誌に投稿される臨床試験について手順書の登録・公開を義務付けるよう各誌に呼びかける動きがあり、日本でも信頼性確保に関して各機関において運用が行われている。しかし、それにも関わらず、上記の問題が生じていることから、わが国の研究者を代表する機関として、日本学術会議が従来の臨床試験制度の問題点を検討し、科学研究の健全性を向上させるために臨床試験等に関わる制度改革を提唱することが求められている。このため、科学研究における健全性の向上に関する検討委員会に臨床試験制度を検討するための新たな分科会として設置するものである。
4	審議事項	臨床試験における技術的、理論的質向上に関する事項を含む臨床試験の今後の制度の在り方に関すること
5	設置期間	<b>時限設置</b> 平成25年8月22日～平成26年3月31日
		常設
6	備考	※新規設置

(提案2)

分野別委員会運営要綱（平成23年9月1日日本学術会議第133回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後					改 正 前					
別表第1					別表第1					
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考	
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	
地域研究委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	地域研究委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	
	地域研究委員会アジアの地域協力の学術的ネットワーク構築分科会	1. アジア学術ネットワークの拡大 2. 知的リーダー養成 3. ネットワーク形成並びに現実諸問題の分析及び提言 4. 若手研究者の育成に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	(略)		(新規設置)				
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	
情報学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	情報学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	
	情報学委員会情報科学技術教育分科会	センター入試への情報科の導入、中学における情報科の設置、情報分野における高大連携、成人に対する情報科学技術リテラシー教育、情報分野における技術者教育・認定制度、情報学分野における教育課程編成上の参照基準の検討に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	(略)		情報科学技術教育分科会	センター入試への情報科の導入、中学における情報科の設置、情報分野における高大連携、成人に対する情報科学技術リテラシー教育、情報分野における技術者教育・認定制度に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	
総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	
	総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会	計算科学シミュレーション技術基盤に関すること	35名以内の会員又は連携会員	(略)		総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会	計算科学シミュレーション技術基盤に関すること	35名以内の会員又は連携会員	(略)	(略)
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会 ポストベタスケール高性能計算に資する可視化処理小委員会	1. 計算科学シミュレーションを可視化したときの効能の評価のあり方についての検討 2. 計算科学シミュレーションから科学的発見を支援するための可視化技術のあり方についての検討 3. 計算科学シミュレーションの社会実装を行う上で可視化技術の果たす役割についての検討に係る審議に関すること	25名以内の会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者	(略)	(新規設置)					

	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
機械工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	機械工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会	総合工学委員会に記載	総合工学委員会に記載			総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会	総合工学委員会に記載	総合工学委員会に記載	
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会 ポストベタスケール高性能計算に資する可視化処理小委員会	総合工学委員会に記載	総合工学委員会に記載		(新規設置)				
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

附則  
この決定は、決定の日から施行する。

地域研究委員会分科会の設置について

分科会等名：アジアの地域協力の学術的ネットワーク構築分科会

1	所属委員会名	地域研究委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	「アジアの地域協力の学術的ネットワーク構築分科会」の創設は、学術会議で昨年まで機能してきた課題別研究、「東アジア共同体の学術基盤形成委員会」の活動と成果を継承し、学術会議の活動をグローバル時代の国際ネットワークに連携させることによって、アジアのシンクタンクのネットワークを拡大させることを目的としている。また、学術・研究・教育レベルでも若手研究者を養成し、社会的リーダーシップの形成を図ることにより、21世紀の日本をより世界（とりわけアジア）と繋げ、活力があり、さらに、問題解決能力基盤の広い社会へと発展させることを目的とし、設置する。
4	審議事項	1.アジア学術ネットワークの拡大 2.知的リーダー養成 3.ネットワーク形成並びに現実諸問題の分析及び提言 4.若手研究者の育成
5	設置期間	時限設置 年 月 日～ 年 月 日 常設
6	備考	※新規設置

情報学委員会分科会の設置について

分科会等名：情報科学技術教育分科会

1	所属委員会名	情報学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>情報科学技術は社会のあらゆる分野に浸透し、いわば現代社会の神経系となっており、グローバル社会や国家の秩序形成を支えている。情報科学技術に関して、社会を形成する個人が持つべき基本的な知識や技能を普及することは、国家の基幹教育として極めて重要な意義を持つ。特に、電子政府等の社会制度に関わる技術を民主主義国家へ導入するためには、国民全体の情報科学技術に関する知識レベルの向上が不可欠である。</p> <p>平成15年度に高等学校の教科「情報科」が始まって以来10年近くが経過し、少ない単位数のなかでさまざまな工夫が行われているが、いまだに大学入試センター試験にも導入されていない。また、高校だけでなく中学における情報科の設置への要望も高まっている。情報科の拡充だけでなく、他教科との連携の中で情報教育を浸透させることも国家の将来を支える人材を育てるうえで重要である。</p> <p>また、成人に対する情報科学技術の教育活動も、「科学技術の智」等の科学技術リテラシー教育の一環として、定着・拡充して行かなければならない。たとえば、ソーシャルメディアの急激な普及に対して、すべての国民が適切な情報リテラシーを有すべきことは明白であろう。国民全体の情報科学技術に関する知識レベルを向上させる中で、情報科学技術の専門家の位置づけを問い直すことも重要と考える。</p> <p>加えて、大学教育の分野別質保証に資するために、<u>情報学分野における教育課程編成上の参照基準の検討を行う。</u></p>
4	審議事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ センター入試への情報科の導入</li> <li>・ 中学における情報科の設置</li> <li>・ 情報分野における高大連携</li> <li>・ 成人に対する情報科学技術リテラシー教育</li> <li>・ 情報分野における技術者教育・認定制度</li> <li>・ <u>情報学分野における教育課程編成上の参照基準の検討</u></li> </ul>
5	設置期間	<p>時限設置      年    月    日～      年    月    日</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">常設</span></p>
6	備考	※調査審議事項の追加

総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計  
分科会小委員会の設置について

分科会等名：ポストペタスケール高性能計算に資する可視化処理小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○総合工学委員会 機械工学委員会
2	委員の構成	25名以内の会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者
3	設置目的	<p>計算科学シミュレーション（以下、「計算科学」）結果から科学的発見や社会実装を促進するために、可視化処理はどうあるべきかについて検討を行う。計算科学等から得られる数値データの理解のために程度の差こそあれ可視化技術が利用されてきたが、ペタスケール（京）やさらにエクサスケールスパコンから生成されるビッグデータを処理対象と想定すると、その拡張性について検討が必要になっている。拡張性を議論するためには、可視化処理に必要なとなる計算機資源や可視化処理によってもたらされる利益についてできるだけ定量的に測定する評価手法を確立しておく必要がある。これらの評価手法についても検討を行う。</p> <p>計算科学から得られる大規模データの可視化処理には、多くの計算機資源を必要とするので、データそのものは多くの科学的発見をもたらす可能性を持ちながら、定型的な可視化処理による現象確認に終わっている。この可視化は、科学的可視化と呼ばれ、シミュレーションモデルが定義される物理空間において実行される。一方、ソーシャルネットワークや高性能センサーから得られるビッグデータからの知見を発掘するために可視化処理が広く用いられるようになってきた。これらは、情報可視化と呼ばれて、パラメータ空間において、パラメータ間の相関を確認するために利用されているが、計算科学の可視化にはあまり活用されていない。</p> <p>以上の問題を解決するために、情報可視化と科学的可視化を連携させ、科学的発見を促す統合可視化処理基盤について検討を行う。これらの可視化処理基盤を活用して、計算科学結果の社会実装をどう実現するかについても検討を行う。</p>
4	審議事項	<p>1) 計算科学を可視化したときの効能の評価のあり方についての検討</p> <p>2) 計算科学から科学的発見を支援するための可視化技術のあり方についての検討</p> <p>3) 計算科学の社会実装を行う上で可視化技術の果たす役割</p>

		についての検討
5	設置期間	時限設置 年 月 日～ 年 月 日
		常設
6	備考	※新規設置



【分野別委員会】

○委員の決定（新規1件）

（地域研究委員会 アジアの地域協力の学術的ネットワーク構築分科会）

氏名	所属・職名	備考
落合 恵美子	京都大学大学院文学研究科教授	第一部会員
木村 茂光	帝京大学文学部史学科教授	第一部会員
羽場 久美子	青山学院大学大学院国際政治経済学研究科教授	第一部会員
小谷 汪之	東京都立大学名誉教授	連携会員

○委員の決定（追加1件）

（情報学委員会 情報科学技術教育分科会）

氏名	所属・職名	備考
石田 亨	京都大学大学院情報学研究科教授	第三部会員
伊藤 守	早稲田大学教育総合科学学術院教授	連携会員
坂井 修一	東京大学大学院情報理工学系研究科教授	連携会員
須藤 修	東京大学大学院情報学環教授	連携会員
向殿 政男	明治大学名誉教授	連携会員

【小委員会】

○委員の決定（新規1件）

（ 総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会  
 ポストペタスケール高性能計算に資する可視化処理小委員会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
萩原 一郎	明治大学研究・知財戦略機構特任教授、先端数理科学 インスティテュート副所長、東京工業大学名誉教授	第三部会員
行場 次朗	東北大学大学院文学研究科教授	連携会員
越塚 誠一	東京大学大学院工学系研究科システム創生学専攻教授	連携会員
小山田耕二	京都大学国際高等教育院教授	連携会員
斎藤 誠一	北海道大学大学院水産科学院資源計測学講座教授	連携会員
下條 真司	大阪大学サイバーメディアセンター応用情報システム 研究部門教授	連携会員
高橋 桂子	独立行政法人海洋研究開発機構地球シミュレータセン タープログラムディレクター	連携会員
田中 克己	京都大学大学院情報学研究科教授	連携会員

(提案3)

【課題別委員会】

○委員の決定(追加1件)

(人口減少が社会の諸システムに及ぼす影響に関する長期展望委員会)

氏名	所属・職名	備考	推薦
津谷 典子	慶應義塾大学経済学部教授	第一部会員	第一部
西村 周三	厚生労働省国立社会保障・人口問題研究所・所長	連携会員	第一部
宮本 太郎	中央大学法学部教授	連携会員	第一部

(提案4)

【課題別委員会】

○委員の決定(追加1件)

(我が国の研究力強化に資する研究人材雇用制度検討委員会)

氏名	所属・職名	備考	推薦
本田 由紀	東京大学大学院教育学研究科教授	連携会員	第一部
佐藤 博樹	東京大学大学院情報学環・社会科学研究所教授	連携会員	第一部

(提案5)

【課題別委員会】

○委員の決定(追加1件)

( 科学者からの自律的な科学情報の発信の在り方検討委員会 )

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考	推 薦
金子 元久	筑波大学大学研究センター教授	第一部会員	第一部
藤垣 裕子	東京大学大学院総合文化研究科教授	連携会員	第一部

(提案6)

【課題別委員会】

○委員の決定(追加1件)

( 日本学術会議の第三者評価機能に関する検討委員会 )

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考	推 薦
友枝 敏雄	大阪大学大学院人間科学研究科長・教授	第一部会員	第一部

提案7～9は提言等関係のため別添2～4を御覧ください。

○代表派遣:平成25年10-12月期の会議派遣候補者

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
1	世界社会科学フォーラム2013 (国際社会科学評議会(ISSC)総会)	10月13日	3日	モントリオール	児玉 克哉 特任連携会員 三重大学人文学部教授	第一部国際協力分科会 第3区分
		10月15日		カナダ		
2	IAP執行委員会	10月31日	2日	キャンベラ	大西 隆 第三部会員 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別招聘教授	国際委員会Gサイエンス及び ICSU等分科会IAP附置委員会対 応小分科会 第2区分
		11月1日		オーストラリア		
3	IAP執行委員会	10月31日	2日	キャンベラ	春日 文子 第二部会員 国立医薬品食品衛生研究所安全情報部長	国際委員会Gサイエンス及び ICSU等分科会IAP附置委員会対 応小分科会 第2区分
		11月1日		オーストラリア		
4	2013年度海洋研究科学委員会 (SCOR)執行理事会	11月25日	4日	ウェリントン	満生 俊敬 連携会員 東京大学大気海洋研究所教授	SCOR分科会 第2区分
		11月28日		ニュージーランド		

## PRELIMINARY STRUCTURE OF THE 2013 WSF PROGRAMME

NOVEMBER 24TH		NOVEMBER 25TH		NOVEMBER 26TH		NOVEMBER 27TH	
12:00 13:30	LUNCH (Steering Committee Members only) venue to be confirmed		<b>INEQUALITIES AS BARRIERS FOR GLOBAL SUSTAINABILITY</b>		<b>SCIENCE FOR NATURAL RESOURCES</b>		
13:30 17:30	Steering Committee Meeting (closed session) venue to be confirmed		Chair: Gretchen Kalonji, Assistant Director-General, UNESCO <b>Speakers:</b> Ricardo Paes e Barros, Strategic Secretary of the Brazilian Presidency's Strategic Affairs Naledi Pandor, Minister of Home Affairs, South Africa Linxiu Zhang, Deputy Director of the Centre for Chinese Agricultural Policy John Burn, Newcastle University, Human Variome Project		Chair: Chunli Bai, President, Chinese Academy of Sciences <b>Speakers:</b> Pavel Kabat, Director, IIASA Ismail Serageldin, Director, Library of Alexandria Luis Eugenio de Mello, Director, Technical Institute of Vale		
	<b>OPENING CEREMONY</b> Municipal Theater of Rio de Janeiro  <b>Jacob Palis</b> , President of the Brazilian Academy of Sciences (5 min) <b>József Pálincás</b> , President of the Hungarian Academy of Sciences (5 min) <b>Gordon McBean</b> , President Elected of ICSU (5 min) <b>Sergio Cabral</b> , Governor of Rio de Janeiro (5min) <b>János Áder</b> , President of Hungary (15 min) <b>Irina Bokova</b> , Director General of UNESCO (15 min) <b>Dilma Rousseff</b> , President of Brazil (15 min) <b>UNESCO Prize Ceremony</b> (30 min) <b>Classical Music Presentation</b> (15 min)	9:00 10:30		9:00 10:30		10:00 11:30	<b>PARLIAMENTARY SESSION</b>

		10:30 11:00	COFFEE BREAK	10:30 11:00	COFFEE BREAK	11:30 12:00	COFFEE BREAK
20:00	RECEPTION and cultural presentation Municipal Theater of Rio de Janeiro	11:00 0 12:30 0	<b>SCIENCE POLICY AND GOVERNANCE: INVENTING THE FUTURE</b>  Chair: Alan Leshner, CEO, AAAS  <b>Speakers:</b> Heneri Dzinyotiyewyi, Minister of Science and Development, Zimbabwe Luiz Davidovich, Director, Brazilian Academy of Sciences Anne Glover, Chief Scientific Adviser to President of the European Commission <b>Takashi Onishi, President, Science Council of Japan</b>  <b>DISCUSSION</b>	11:00 0 12:30 0	<b>SCIENCE AND ENGINEERING EDUCATION</b>  Chair: Volker ter Meulen  <b>Speakers:</b> Pierre Léna, President of the Foundation <i>La main à la Pâte</i> Eva-Maria Nehor, XLAB Experimental Laboratory for Young People in Göttingen Daya Reddy, President, Academy of Sciences of South Africa Patricio Felmer, University of Chile  <b>DISCUSSION</b>	12:00 13:30	<b>CLOSING CEREMONY</b> and Presentation of the Declaration
23:00	Transfer to hotels	12:30 14:00	LUNCH	12:30 14:00	LUNCH		
		14:00 0 15:30 0	<b>SCIENTIFIC INTEGRITY</b>  Chair: Ernst Winnacker, Secretary General, Human Frontier Science Program  <b>Speakers:</b> Indira Nath, Director, LEPR - Blue Peter Research Centre in Hyderabad Bengt Gustafsson, Uppsala University Nicholas Steneck, Director, Research Ethics and Integrity Program, Michigan Institute for Clinical and Health Research Paulo Beirão, Coordinator, Global research Council  <b>DISCUSSION</b>	14:00 0 15:30 0	<b>THE FUNDAMENTAL ROLES OF SCIENCE IN INNOVATION</b>  Chair: Werner Arber, Nobel Laureate  <b>Speakers:</b> <b>Reiko Kuroda, University of Tokyo</b> Iúscel Pálincás, President, Hungarian Academy of Sciences Carlos Tadeu, Executive Manager for Pre salt, Petrobras Umar Buba Bindir, DG, National Office for Technology Acquisition and Promotion  <b>DISCUSSION</b>		

PARALLEL THEMATIC SESSIONS

NOVEMBER 25TH				NOVEMBER 26TH				
15:30	COFFEE BREAK			15:30	COFFEE BREAK			
16:00	<b>AMAZONIA, BIODIVERSITY AND SUSTAINABLE DEVELOPMENT</b>  Chair: Adalberto Val, Director, INPA  Speakers: Nilson Gabas Wolfgang Junk Antonio Brack Egg Julio Cezar Centeno	<b>THE MEDICAL CHALLENGE OF OLD AGE</b>  Chair: Sérgio Pena  Speakers: Suzanne Craft Yingrui Li Barnett Kramer Fernando Lavadenz	<b>SCIENCE DIPLOMACY</b>  Chair: Katalin Bogvay  Speakers: Vaughan Turekian Romain Murenzi Martyn Poliakoff Adel El Beltagy Taleo Arimoto	16:00	<b>WATER COOPERATION AND SECURITY</b>  Chair: László Somlyódy  Speakers: Lars Tranvik Jose Galizia Tundisi Zelmira May	17:30	<b>SCIENCE FOR SUSTAINABILITY OR SUSTAINABILITY FOR SCIENCE?</b>  Chair: Gordon Dalton and Carlos Acevedo  Speakers: Ellen Pearce Martin Hynes Eduardo Viotti Ester Basri Claire McNulty	<b>SCIENCE AND TECHNOLOGY IN THE SERVICE OF DISASTER RISK REDUCTION</b>  Chair: Virginia Murray (passagem ABC)  Speakers: David Johnston Yuichi Ono Richard M Allen
17:30	<b>SUSTAINABLE PLANTED FORESTS</b>  Chair: Ron Sederoff  Speakers: Oudara Souvannavong Shawn Mansfield Hans Grosse Werner Dario Grattapaglia	<b>APPLYING OCEAN SCIENCES AND KNOWLEDGE FOR SOCIETAL BENEFIT: DEMANDS AFTER RIO+20</b>  Chair: Jorge Luis Valdés  Speakers: José Muelbert Alan Simcock Patricia Miloslavich	<b>THE ROLE OF HIGHER EDUCATION IN BUILDING A CRITICAL MASS FOR GLOBAL SUSTAINABILITY</b>  Chair: Lidia Brito and Jorge Guimarães  Speakers:	17:30	<b>BIOENERGY</b>  Chair: Chris Somerville  Speakers: Luuk van der Wielen Xie Guanghui Luís Augusto Barbosa Cortez John Pierce Johann Görgens	19:00	<b>ACADEMY AND ENTERPRISE</b>  Chair: Carlos Alberto Aragão  Speakers: Bernardo Gradin Luciano Pedrote Gábor Bojár Erik Bogesch	<b>CHALLENGES AND OPPORTUNITIES OF INTERDISCIPLINARY AND TRANSDISCIPLINARY SCIENCE FOR SUSTAINABILITY: FUTURE EARTH</b>  Chair: Speakers: Thomas Rosswall Roberto Guimarães Carlos Nobre
20:00	RECEPTION AND CULTURAL PRESENTATION VENUE: ESPACO FRANKLIN HISTORICAL CENTER OF RIO DE JANEIRO			20:00	RECEPTION AND CULTURAL PRESENTATION TENTATIVE LOCATION: HISTORICAL NATIONAL MUSEUM, RIO DE JANEIRO			



**(提案 1 2)**

**日本学術会議協力学術研究団体への新規申込があった団体の概要**

団体名	団体の概要
日本ヘルスプロモーション学会	健康を軸にした学際的・総合的アプローチによって、健康の解明とその支援方法を（個人の支援から集団・組織の支援そして制度作りまで）を明らかにする学会。日本健康教育学会（既指定団体）と連携協力を昨年度から実施、人的交流を進めている。
ハイデガー・フォーラム	20 世紀のドイツの哲学者ハイデガーの思索を研究する学会。ハイデガーは古代以来の西洋哲学との対話・対決を志した。日本哲学会（既指定団体）等との連携を推進。
日本ジョンソン協会	サミュエル・ジョンソンをはじめとする 18 世紀を中心としたイギリス文学・文化全般を研究する学会。サミュエル・ジョンソンは、「英語辞典」の出版など、近代イギリス社会の形成をその言語文化的観点から達成したとされる。会員の多くは、日本 18 世紀学会（既指定団体）のイギリス分野の主軸となっている。 類似既指定団体として、日本シェイクスピア学会、イギリス・ロマン派学会などがある。
日本作業療法研究学会	作業療法の効果を明確にし、そのエビデンス（作業療法における治療的根拠）を追究し、作業療法を啓蒙しながら、社会への貢献を進めていくことを目的とする。会員のほぼ全員が日本作業療法士協会の会員であり、一部が日本作業行動学会の会員でもあるが、これらの協会（いずれも既指定団体）との直接的な連携・協力はない。
D-アミノ酸研究会	アミノ酸はタンパク質、DNA などと共に生命を担う重要な化合物であるが、長らく、生体を構成するアミノ酸はL体であり、D-アミノ酸は特定細菌の構成成分など極めて限られたものとされてきた。しかし、近年、分析技術の進展に伴い、微生物、植物をはじめ、哺乳動物にも存在し、多様な生理機能を果たすことが明らかになった。本研究会は、D-アミノ酸に関心を持つ研究者等から構成されている。なお、日本アミノ酸学会（既指定団体）とは連携協力していないが、会員は重複している者が多い。

提案 13～28、32 はシンポジウム等関係のため別添 5 を御覧ください

提案 29～30 は別添なし

## Future Earth に対する学術会議の体制について

### I. Future Earth (FE) 事務局公募 (2013 年 7 月 9 日公表)

#### 1. 公募対象

- 事務局本部 Headquarter、地域支部 Regional Nodes (両方を兼ねてもよい)

#### 2. 応募主体

- 単一機関 (研究機関・大学・政府機関など) あるいは複数機関のコンソーシアム

#### 3. 事務局に求められる役割

- 2015 年 1 月から業務開始～10 年間 (5 年後に見直し)
- FE の管理運営、各委員会の事務支援、FE の財務管理
- 研究テーマ間、個別プロジェクト間、地域間、委員会間の連絡調整
- 採択された研究の活動取りまとめ

#### 4. 選考過程

- アライアンス代表、科学ならびにエンゲージメント委員会代表による選考  
STEP 1. 意思表示 (2013 年 9 月 23 日)  
STEP 2. 応募者間会議 (2013 年 11 月中旬)  
STEP 3. 最終選考応募締切 (2014 年 2 月末) ⇒ 決定 (2014 年 6 月)

### II. 文部科学省の動き

#### 1. 科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 環境エネルギー科学技術委員会 持続可能な地球環境研究に関する検討作業部会

- 7 月 24 日 第 3 回作業部会において、日本への本部誘致に前向きな議論。「中間とりまとめ (論点整理) <素案>」を座長預かりとして修正後、8 月上旬開催の親委員会に報告、26 年度予算概算要求基礎資料に。
- 同作業部会終了後、作業部会正副座長、大西会長、春日副会長、国環研、IGES、ユネスコ日本委員会、文科省担当者による非公式会合。日本はコンソーシアムを形成して、事務局本部、地域支部、ともに立候補。コンソーシアム代表は日本学術会議。コンソーシアムメンバー、トップダウン戦略について、至急検討開始。

### III. 日本学術会議の体制、活動

#### 1. 6 月 18 日学術フォーラム開催、幹事会附置 FE 委員会設置

#### 2. ステークホルダーの特定と協働、日本の特色を生かした申請と FE のセールスポイントによる政府・社会への協力要請が鍵 (「持続可能性」「防災・減災」「貧困撲滅」3 点の融合、さらに「再エネ産業」「科学技術外交」「FE スタートアップ発信」など)

#### 3. 応募過程は今後の国内での FE 実施のためにも重要な学習体験